

校名：信州大学教育学部附属長野中学校

所在地：〒386-0016 長野県長野市南堀 109

電話番号：026-243-0032

記載日：平成 28 年 5 月 9 日

記載者：石川 武

記載者役職：副校長

### 貴校の校風、おおまかな特色について：

雪に耐え抜き、気品に満ちた花を咲かせる「戸隠しょうま」のような、気概をもった人間を目指して師弟共に歩いていこうと、昭和 50 年、「困苦に耐えるたくましい力をつけよう」「自他共に、よりよく生きよう」「気品のある豊かな心を育てよう」という三つの学校目標が立てられた。この目指す生徒像は、平成 14 年度「ともに学び 一人となる」と改められた学校目標の基盤に流れている本校の願いでもある。教師も生徒も、一人ひとりが自己に厳しく、気品のある生き方を目指し、互いに励ましあいながらよりよい生き方を探る「一人となる生徒」を育てていきたいと考える

### 貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① していない
- ② 把握していない（学級担任はその後の繋がりをつかんでいる場合もあるが、転勤等で学校に残っていない。学校としては不明）
- ③ 分からない

### 貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① していない
- ② 把握していない
- ③ 個別に把握はしていないが、県教育委員会の指導主事、主幹指導主事、課長など県教育の中枢や現場の教頭、校長など指導的な立場を担う方の多くが附属学校園の勤務経験がある。

### 魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

1 グランドデザインに基づき、全職員が同じ方向で教育実践にあたる。

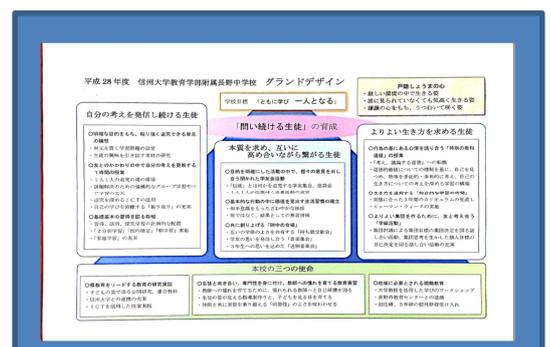
(1) 課題解決するために思考・判断しながら自分の考えを主体的に表現する生徒

① 友との関わりの中で自分の考えを更新する 1 時間の授業

- 課題を解決するための協働的なグループ学習  
ペア学習の工夫
- 学びの足跡を生徒自身が確認できる工夫
- 目的に沿って得た情報を解釈し、分かりやすく表現する学習場面の設定
- 追究の深まりを実感できる ICT の活用

② 明確な目的をもち粘り強く追究できる単元の構想

- 互いの考えを発信し合う学習場面の設定



- 単元を貫く学習問題を設定
- 基礎基本の習得を図る取り組み
- 「2分前学習」「朝学習」「校内検定」の実施

## (2) 自己に問い、互いに高めあいながら繋がる生徒

- ① 目的を明確にした活動の中で、個々の意見を出し合う開かれた学友会活動
- ② 自分の思いをもち、全力で参加する合唱活動
- ③ 行為のもとにある心情を「考え、議論」する道德の工夫

## (3) 自己に問い続ける生徒

- ① 自己に問い続け、生き方を友と語り合う「総合的な学習の時間」
  - ヒューマンウィークの実施
  - 「問い」を追究し、考えの深まりが自覚できる振り返りの工夫
- ② 共に作り上げる学級合唱
  - 互いの学級のよさを共有する「持ち歌交換会」などの実施
  - よりよい集団を作ろうと考え合う学級活動
  - 互いの学級のよさを共有する「縦割り学級」での話し合い

## 2 教育活動の重点

- (1) 憧れをもち、よりよいものを求めようとする心の育成  
学友会、音楽集会など、憧れや誇りをもたせる場面をつくる。
- (2) 語り合い、求め合う教師集団への意識化  
自分を語り、互いを認め合い、誇りのもてる教師集団をつくる。
- (3) 生徒の伸びをともに認め合える保護者との連携

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

### 1 生徒・保護者・地域

- (1) 開校 70 年の歴史と伝統を持ち、親子に渡り 3 代続けて長野中という家庭も多い。
- (2) 卒業生は長野市の産業、文化、経済の要職を担う。(PTA 会長や同窓会長、後援会長などを歴任する方が、商工会議所や、医師会、JC の要職に就かれている)
- (3) 入学希望者は例年多く、平成 28 年度入試では、中学校からの入学生 120 名の募集定員に対して 340 名の応募があった。(2.8 倍)
- (4) 例年 200 名の卒業生のうち 43%弱が N 高等学校へ進学している。

以上から、長野地区において附属—N 高等学校のステータス、ブランドは他校に比べて強い。(在学時の交友関係、保護者の繋がり等が将来に及んで仕事に影響を与えている)

### 2 在籍教職員

- (1) 信州大学の教育実習の質の高さ。
- (2) 附属の経験のある教職員は、地元の地域の教育の中核を担うケースが多い。
- (3) 現場の教務主任、県や市町村の教育委員会の指導主事になるケースが多い。
- (4) 教頭、校長などの管理職となる割合が高い、また校長会でもリーダー的な存在になるケースが多い。
- (5) 県教委の課長、主幹指導主事など県教育の中核になるケースが多い。

以上から、長野県教育において指導的な役割を果たす教職員の多くが附属学校園で研修を積んでいる、また人脈作りも担っていることから、長野県の教育委員会として人材育成の大きな部分を担っている重要な学校である。

**附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：**

上記1及び2から考察して 地域にとって、県の教育にとって附属長野中学校は今までも、これからも必要不可欠な存在である。

今後の少子高齢化の日本社会の現状を鑑みたとき、今後減り続ける子どもの数や、予測不能な未来を生きる力、教育の将来像が見えないといった現状がある。その指針となる方向を示す意味で附属学校の研究はこれからも重要であると考えます。また教育のリーダー育成の意味での教員研修の場として教職大学院も含めて重要な存在であるといえる。